

press release

前売券好評販売中!

猫が人だったら、人が猫だったら。

I DREAM CATS

猫展

COULD BE US.

2024 12/19(木) - 2025 2/9(日)

休館日 | 12月25日～1月1日(年末年始)
開館時間 | 9:00～17:00(金曜日は19:00まで開館)
※入場は閉館30分前まで ※12月19日は10時開場

歌川国芳「流行猫の魚桶」/ 同「流行猫の曲手3羽」/
歌川国芳「新服猫の玉のり」/ 「大新服猫のいし」2点付。
以上いずれも部分、個人蔵/
歌川国芳「見すやねのねぐらの夜猫」部分、
名古屋市博物館蔵(高木繁コレクション)

主催 広島県立美術館、広島テレビ、イーストテック、中国新聞社
後援 中国放送、広島ホームテレビ、新広島エフエム、やまぐちテレビ、尾道ラジオ放送
協賛 広島県信用組合、一般財団法人ケンシン地域振興財団、協力 名古屋市博物館

広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum
〒730-0014 広島市中区上横町2-22
Tel.082-221-6246 Fax.082-223-1444
<https://www.hpam.jp/museum>

【開催趣旨】

現代のサブカルチャーでは、動物や刀剣を人の姿で表現する擬人化表現が定番となっていますが、とりわけ猫のキャラクターは突出しています。実は150年前にも同じように、擬人化された猫が圧倒的な人気を誇った時代がありました。擬人化の絵画表現自体はすでに平安時代に見られ、室町時代から江戸時代にかけて頻出するようになりますが、そのなかに猫が主役となる作例はさほど多くありません。ところが明治時代のおもちゃ絵では、しごく当たり前のように猫たちが擬人化の主役となって登場します。明治にいたるまでに、擬人化表現の世界に何が起こったのでしょうか？その要因は浮世絵師の歌川国芳（うたがわくによし）にあります。江戸時代後期、猫を擬人化した国芳の浮世絵が大ヒット。彼の手にかければ猫を人間のように描くだけでなく、反対に人間の有名人が猫や亀に変身してさえいるのです。国芳が斬新だったのはこの点にあり、彼こそが擬人化表現の世界を広げた存在だといえます。本展では江戸時代の擬人化表現、なかでも猫の表現とそこに与えた歌川国芳の影響を、国芳以外の作家による作品も合わせた131点で紹介します。

【歌川国芳（うたがわ くによし）とは】

寛政9年（1797）～文久元年（1861）。姓は井草、名は孫三郎、画号はほかに採芳舎、一勇斎、勇斎、朝桜楼、一妙閑、程芳。文化11年（1814）、合巻挿絵と役者絵でデビュー。文政10年（1827）、「通俗水滸伝百八人 之一個」シリーズが大評判となり、以後「武者絵の国芳」としての地歩を固めていきました。

また洋風風景画や物語絵、戯画、風刺画、美人画、役者絵、見世物絵などをてがけ、国貞や広重らと並んで幕末を代表する浮世絵師となりました。根っからの猫好きとしても知られ、懷に子猫を抱きながら筆をとっていたとか、猫の位牌を作ったとか、愛猫家としてのエピソードには事欠きません。それだけに猫のちょっとした表情、しぐさなどの表現がたまらなくうまいのです。猫の生態を日々、じっくりと観察していたのでしょう。現代の猫好きをも魅了する作品の数々は、彼が愛猫へと注いだ温かいまなざしを反映したものといえます。



落合芳幾「国芳死絵」名古屋市博物館（高木繁コレクション）

第1章 くらべてみる

擬人化表現はパロディの一種ともいえ、人々が共有するイメージ、つまり当時の人ならば誰もが知っている特質や伝承、あるいは世間を騒がせた話題を基として制作されることがあります。その場合既存のイメージからの逸脱によって生まれる可笑（おか）しみに妙趣があるといえるでしょう。とりわけ、大衆が主たる購買者である浮世絵では、こうした傾向が顕著になっています。しかし現代となつては、かつて共有されていたイメージ自体がなじみの薄いものとなっており、当時の人々が味わった楽しさが、いささか分かりにくくなっています。そこでまず展覧会の幕開けとして、擬人化して描いた作品と元となったイメージを具体的に見比べてみることで、擬人化表現の魅力を再発見していきます。



歌川国利「新版猫の玉のり」個人蔵



歌川芳春「猫角力あそび」個人蔵

第2章 擬人化の効能

室町時代から江戸時代前期にかけて、たくさんの物語（御伽草子）が創作されましたが、そのなかでも人ならぬもの（異類）を主役に据えた作例を「^{いるい}異類物」と呼びます。ここからは擬人化世界への入り口としてまず異類物を、つづいて今でも知られる昔ばなしを記した子供向けの絵本、ユーモラスな^{ぎが}戯画や当時の世相を映した^{ふうしが}風刺画など、江戸時代から明治にかけての擬人化作品を紹介していきます。これらを眺めていくことで、擬人化することによりどのような効果が引き出されるのか、感じていただけることでしょう。あわせて擬人化表現のバリエーションや範疇についても見ていきます。



歌川国芳「玉取り」 名古屋市博物館

第3章 おこまものがたり

天保13年(1842)、雌猫“おこま”の一生を擬人化して描いた合巻(長編小説)『^{ごうかん}朧月^{おごろづき}猫の草紙^{そうし}』(山東京山^{さんとうきやうざん}作・歌川国芳画)が刊行され、シリーズ化するほどの人気を得ました。おこまちゃんの人生ならぬ猫生は波乱万丈そのものでハラハラドキドキの連続。大の猫好きである山東京山・歌川国芳によって、猫にまつわる逸話、猫のしぐさや習性をふまえたイメージ、人気のあった歌舞伎芝居の趣向がふんだんに盛り込まれ、変幻自在に変わる猫たちの姿も飽きさせません。現代に生きる私たちが見ても十分に楽しめる物語です。ここでは異類の婚礼儀礼をつづった「^{よめいりもの}嫁入物」の流れのなかに、『朧月猫の草紙』を位置づけながら、「おこまものがたり」の継承と広がりを明らかにしていきます。あわせて江戸時代における女性と猫の関係性や犬の位置づけについてもご紹介します。



山東京山作・歌川国芳画『朧月猫の草紙』個人蔵

第4章 人、猫になる

天保12年（1841）頃、歌川国芳による^{うちわえ}団扇絵「猫の百面相」^{ひやくめんそう}が流行します。猫を人間らしい仕草で描くばかりではなく、実在する人間である歌舞伎役者を猫に見立てて描くという趣向は、これまでにない新機軸でした。こちらは「もしあの有名人が猫になったら？」というアイデアが起点になったものといえるでしょう。これにより、役者の似顔を面白おかしく描く^{やくしゃぎが}役者戯画のバリエーションが豊かになります。そして同趣向は、猫だけでなく他の動物や事物へ対象を広げながら、後世の浮世絵師たちへと受け継がれていきました。ここでは国芳が打ち出した新機軸「猫の百面相」流行の様相と展開をご覧ください。



歌川国芳「猫の百面相 忠臣蔵」個人蔵



歌川国芳「流行猫の戯 おしゅん伝兵衛 身の臭姪色時」名古屋市博物館

第5章 国芳のまなざし

いかに対象を観察し、描くか。そしてアイデアをどのように膨らませ、形にしていくか。

百面相で培われた画才は、そのまま戯画にも結実しました。最後に再び国芳描く猫の戯画に戻しましょう。ここでは彼の観察力や的確な表現力を堪能しつつ、次から次へと溢れるユーモラスなアイデアをお楽しみください。例えば画稿と完成作を見比べてみると国芳の推敲の跡をたどることができますが、これらの作品が完成にいたるまでに、いったいどれほどの着想が彼の画囊にあり取捨選択されたのでしょうか。そんなことに思いがいたるとき、猫という対象に注ぐ国芳の真摯かつ愛あるまなざしを感じずにはられません。



歌川国芳「流行猫の曲手まり」個人蔵

【関連イベント】

① 記念講演会「国芳、猫を描く」

日時：1月11日（土）13：30～15：00（13：00開場）

講師：津田卓子（名古屋市博物館 学芸員）

会場：地階講堂

共催：広島県立美術館友の会

定員：200名

※聴講無料 ※要事前申込（Tel082-221-6246）

② ワークショップ 江戸のペーパークラフトを作ってみよう

日時：1月18日（土）13：30～15：00（13：00開場）

講師：当館 本展担当学芸員

会場：地階講堂

定員：16名

※参加無料 ※要事前申込（Tel082-221-6246）



③ 学芸員によるギャラリートーク

日時：12月20日（金）、2025年1月17日（金）、
1月31日（金）11時～、18時～

会場：3階企画展示室

※要入館券 ※事前申込不要

④ 展示室からインスタライブ

日時：1月7日（火）、14日（火）、28日（火）
17：00～

公式Instagramはこちらから



3階ティールームでは、猫カレーや
猫ドリンクなど特別メニューを用意しています。





JR
芸備線
志和口駅
駅長 やまと ●
副駅長 ちどり ●

【関連概要】

メインタイトル：もしも猫展

英語名：I DREAM CATS COULD BE US.

会期：2024年12月19日(木)～2025年2月9日(日)

※12月25日～1月1日は休館(年末年始)

開館時間：9:00～17:00(金曜日は19:00まで開館)

※入場は閉館の30分前まで ※12月19日は10:00開場

料金：一般 1,500円 高・大学生 1,000円 小・中学生 700円

※前売り・20名以上の団体は当日料金より200円引き

※会期中、本展チケットのご提示(半券可)により、100円で縮景園にご入園いただけます。

※学生券をご購入・ご入場の際は、学生証のご提示をお願いします。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額です。手帳を提示してください。

※前売券は、広島県立美術館、セブンチケット(セブンコード:107-815)、ローソンチケット(Lコード:63037)、チケットぴあ(Pコード:687-086)、楽天チケット、広島市・呉市内の主なプレイガイド、画廊・画材店、ゆめタウン広島、中国新聞社読者広報部などで販売しています。

開催クレジット

主催：広島県立美術館、広島テレビ、イズミテクノ、中国新聞社

後援：中国放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、エフエムふくやま、尾道エフエム放送

協賛：広島県信用組合、一般財団法人ケンシン地域振興財団

助成：名古屋市博物館

問い合わせ先：広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町 2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail: iroeuma2@gmail.com

担当：学芸課 角田新

広報担当：総務課 一色直香

公式 SNS はこちらから



【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館へお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館へ提出していただき、

1週間程度お時間を頂きます。ご了承ください。

※展示室内での筆記具の使用は鉛筆のみお願いします。(ボールペンなど使用不可)